

都市再生整備計画

すいきょうやなぎかわほりわりちく
水郷柳河掘割地区

ふくおかけん やながわし
福岡県 柳川市

令和2年 1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input checked="" type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	柳川市	地区名	水郷柳河掘割地区	面積	322 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度	交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 6 年度				

目標
 ○拠点の機能強化と拠点間の連携強化に加え柳川らしい景観づくりに取組むことで、住民や観光客の満足度の向上や地域の活性化を目指す。

目標設定の根拠
 まちづくりの経緯及び現況
 ・本地区は、広域拠点や観光・文化拠点を含み本市の中心市街地として位置づけられているものの、商業地としての土地利用が減り、空き店舗が増加するなど空洞化が進んでいる。
 ・本地区には掘割が縦横にめぐっていて、他のまちにはない景観が形づくられており、それが人々を惹きつける大きな魅力となっている。(川下り観光客数:約40万人/年)
 ・掘割、神社仏閣や名木、古木の緑など歴史とともに育まれてきた守るべき貴重な資源が多数あり、それらは文化遺産であるとともに観光資源でもある。
 ・平成24年に「柳川市景観計画」及び「柳川市景観条例」を策定し、本地区の大部分は景観重要地区に位置付けている。
 ・平成27年に柳川城を巡る掘割や北原白秋生家などで構成される「水郷柳河」が国の名勝に指定されている。
 ・本市を訪れる観光入込客は年間135万人前後で推移しており、近年は観光スタイルが団体旅行から個人、小グループ旅行に移行している。また、宿泊を伴う観光入込客の割合は増加傾向にありつつも以前として5%前後の低い水準となっており、通過型観光スタイルが大半を占めている。
 ・西鉄柳川駅の1日平均利用者は11,500人前後で推移し、やや減少傾向にある一方で、利便性向上のため機能改善が求められている。
 ・駅周辺や沖端水天宮周辺、柳川商店街周辺では、これまでまちなみワークショップや利活用ワークショップなど、様々な市民協働の取り組みを実施している。また、ワークショップから波及した市民団体(柳川暮らしつぐ会)の発足や地元商店会などの活動が活発になってきており、今後も継続した取組が必要となっている。

課題
 ・財政的制約の中で、効率的で効果的な都市づくりが求められており、来訪者にとって玄関口となる西鉄柳川駅を起点として訪れて楽しい市街地づくりを進める必要がある。
 ・商業機能の活性化だけではなく、歩道や公園などの自然環境を配置するなど総合的な計画のもと、住民にとって快適で、来訪者にとってもゆったりと過ごすことができる場所づくりも含めた中心市街地の活性化が必要となっている。
 ・観光ニーズに対応した機能、動線などの十分なサービスが提供できおらず、アクセス環境の改善が必要となっている。
 ・観光スポット間の交通が不便であるとの指摘の声も上がっており、柳川らしい二次交通のあり方についても検討が必要となっている。
 ・地域活性化や観光客の満足度向上のため、自然との調和や文化・環境へ配慮した都市基盤施設や公共施設の整備などの空間づくりを進める必要がある。
 ・量的な観光から質的な観光への転換が求められており、観光消費額を底上げするための滞在時間の延長や、市民の豊かな暮らしと観光客の満足度が向上するような新たな価値の創造が必要となっている。
 ・『おもてなし日本一』を目指した市民意識の醸成として、市民誰もが観光客などの来訪者をあたたかく受け入れるような仕組みや環境の整備が求められている。
 ・掘割と市民の距離が離れてきており、柳川ならではの自然、文化などと共に掘割をもっと身近に感じてもらえるような取組が必要となっている。

将来ビジョン(中長期)
 ■都市計画マスタープラン(平成28年12月 目標年次:令和11年度(2029年度))
 【将来像】水と人とまちが美しい水郷柳川
 【基本理念】
 ○あらゆる世代が快適に歩いて暮らせる都市づくり ○水郷を守り親しみ自然と共生する都市づくり ○歴史・文化の香りたどる美しい都市づくり ○地域コミュニティや交流連携を大切にした市民と協働する都市づくり
 ■第2次柳川市総合計画(平成29年6月 目標年次:令和6年度(2024年度))
 【将来像】水と人とまちが輝く柳川
 【政策目標】
 ○柳川の歴史・文化・風土に誇りと愛着を持つふるさとづくり ○若い世代の希望を叶え、柳川の子育て、暮らしに幸せを感じるひとづくり ○水郷柳川の風情や快適さに共感し人を惹きつけるまちづくり ○柳川の地域資源や物産を誇れるしごとづくり
 ■第二次柳川市観光振興計画(平成31年3月 目標年次:令和10年度(2028年度))
 【将来像】市民の豊かな暮らしと観光客を迎え入れるおもてなし
 ○新たな柳川観光を創出するための基本理念:『市民みんなで作る交流力』
 ○基本理念に基づく三つの施策『地域のデザイン力』『地域の交流力』『地域の推進力』
 ○基本方針『柳川観光のブランドをデザイン』『柳川観光の多様な魅力をデザイン』『受け入れ環境の整備』など

目標を定量化する指標

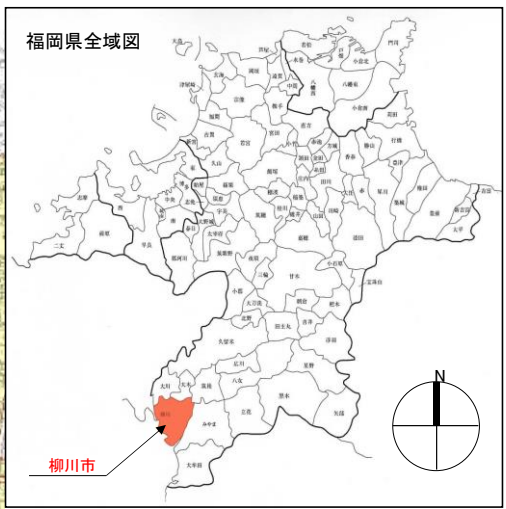
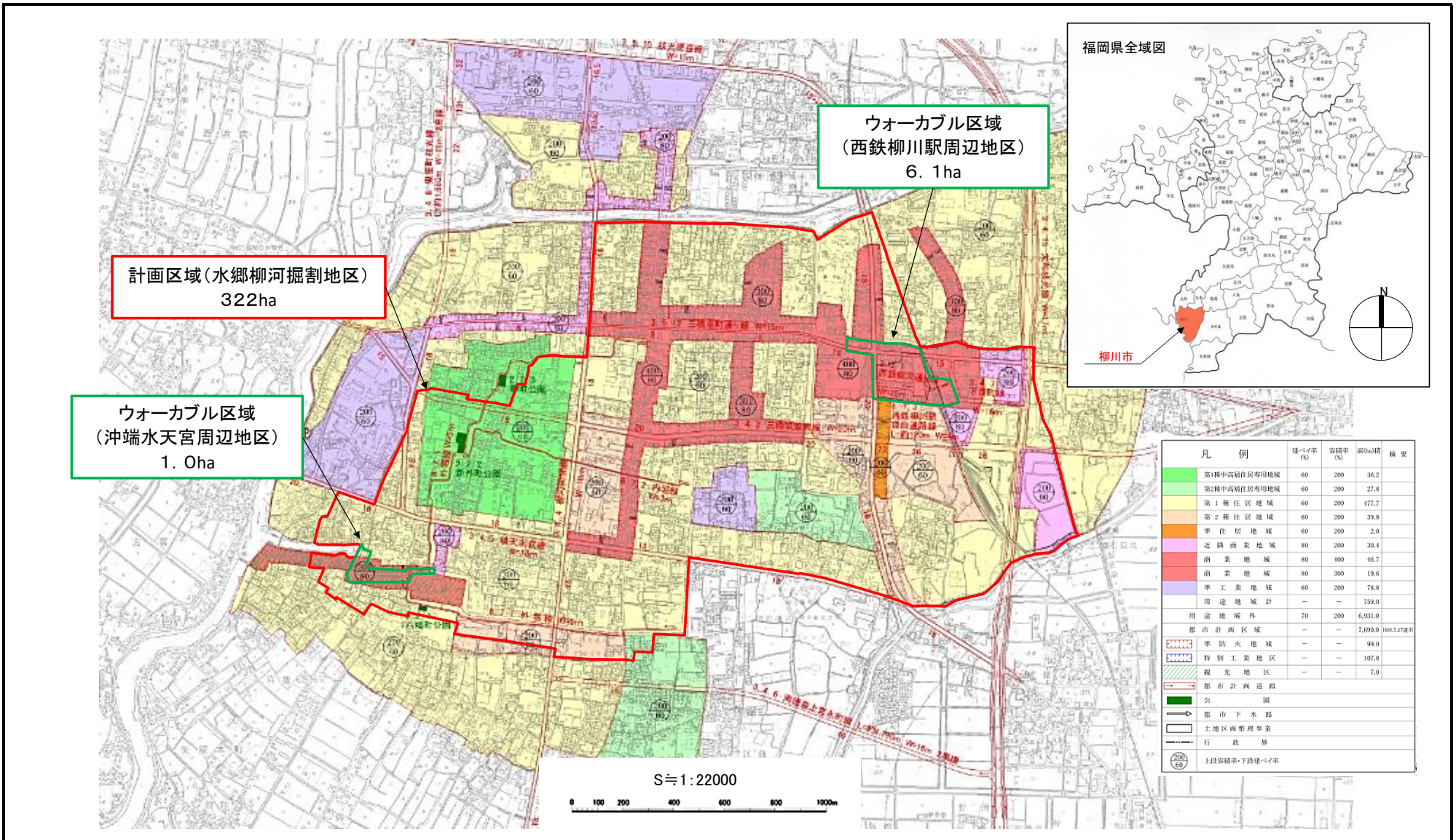
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
旅行全体に対する満足度	%	観光客動態調査における旅行全体に対する満足度(アンケート調査結果)	拠点機能強化や賑わい創出を目的とした様々な事業を実施することにより、旅行全体に対する満足度が向上する。	78.20%	平成30年度	83.0% 令和6年度
一人あたりの観光消費額	円/人	観光動態調査における一人あたりの観光消費額	夜間景観の取組や、歩行者中心の道路空間へ再編することにより、観光客の滞在時間が延長し、一人あたりの消費額が増加する。	4,873円/人	平成30年度	5,200円/人 令和6年度
西鉄柳川駅の1日平均乗降員数	人/日	西日本鉄道㈱が公表している西鉄柳川駅の1日平均乗降員数	拠点機能の強化を行うことにより、駅利用者数の減少傾向に歯止めをかけ、目標年推計値を現況値並みに増加させる。	(目標年推計) 10,703人/日	平成30年度	11,400人/日 令和6年度
路上駐車短時間の最大数	台/5分	沖端水天宮周辺における路上駐車数(5分間隔・荷捌き車両含む)	道路空間を“ゆったりと人々が憩う歩行者中心の空間”へ再編することにより、路上駐車が減少する。	14台/5分	平成30年度	6台/5分 令和6年度

整備方針等

様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>★多様な交通や連携を生み出す空間づくり 掘割や道路空間を地域住民や観光客など誰もが『安全』『快適』に利用でき、『ゆったり』と寛げるような空間として形成し、滞留性や回遊性の向上を目指す。</p>	<p>○地域生活基盤施設(基幹事業／駅周辺サイン整備) ○高質空間形成施設(基幹事業／西鉄柳河通り線道路修景、佐屋ノ前塚町線道路修景、四町八反佐屋の前線道路修景、沖端水天宮周辺道路修景) ○地域創造支援事業(提案事業／名勝水郷柳河水上デッキ、沖端水天宮周辺市道護岸、沖端水天宮周辺水路護岸) ○関連事業(広域連携事業)</p>
<p>★柳川らしいまちなみ形成によるまちの魅力向上 地域の人が誇り観光客が感動する景観づくりとして、歴史や文化を継承した柳川らしいまちなみを形成することによりまちの魅力を向上させる。</p>	<p>○高質空間形成施設(基幹事業／西鉄柳河通り線道路修景、佐屋ノ前塚町線道路修景、沖端水天宮周辺道路修景、水郷柳河(掘割)沿い照明改修) ○地域創造支援事業(提案事業／沖端水天宮周辺市道護岸、沖端水天宮周辺水路護岸) ○関連事業(広域連携事業)</p>
<p>★住民や来訪者の利便性向上を目指した拠点機能の強化 ニーズに対応したサービスを提供することで、利便性の向上を図り、拠点としての機能強化を目指す。</p>	<p>○地域生活基盤施設(基幹事業／駅周辺サイン整備) ○高質空間形成施設(基幹事業／駅前広場エンルター整備、西鉄柳河通り線道路修景) ○地域創造支援事業(提案事業／名勝水郷柳河水上デッキ) ○関連事業(広域連携事業)</p>
<p>★市民協働によるまちづくり体制の推進 市民ワークショップや地域活性化を目的としたイベント等を実施し、整備後の公共空間の維持管理や利活用に対する意識の醸成を図るとともに、人材育成・市民活動等の担い手を育成することで、今後のまちづくり体制の推進を図る。</p>	<p>○まちづくり活動推進事業(提案事業／市民ワークショップ・イベント、二次交通検討)</p>
<p>その他</p>	

<p>水郷柳河掘割地区(福岡県柳川市)</p>	<p>面積</p>	<p>322(7.1) ha</p>	<p>区域</p> <p>柳川市隅町、横山町、常盤町、上町、材木町の一部、靴屋町の一部、蟹町の一部、中町、恵美須町、八軒町、曙町、旭町、京町、辻町、八百屋町、西魚屋町、鍛冶屋町の一部、片原町の一部、椿原町、細工町、新町、東魚屋町、小道具町、本町、一新町、北長柄町、柳町の一部、坂本町の一部、袋町、南長柄町、出来町、奥州町、本城町、新外町の一部、城隅町、鬼童町、筑紫町の一部、城南町、茂庵町、宮永町、上宮永町の一部、弥四郎町の一部、吉富町の一部、矢留本町の一部、沖端町の一部、稻荷町の一部、三橋町蒲船津の一部、三橋町下百町、三橋町高畑の一部、三橋町今古賀の一部、三橋町藤吉の一部、三橋町江曲の一部</p>
-------------------------	-----------	--------------------	---



凡例	建ぺい率 (%)	容積率 (%)	面積(ha)積	摘要
[Green]	60	200	36.2	第1種中高層住居専用地域
[Light Green]	60	200	27.8	第2種中高層住居専用地域
[Yellow]	60	200	477.7	第1種住居地域
[Orange]	60	200	39.8	第2種住居地域
[Light Orange]	60	200	2.0	準住居地域
[Pink]	80	200	30.4	近隣商業地域
[Red]	80	400	46.7	商業地域
[Light Red]	80	300	19.6	商業地域
[Purple]	60	200	78.8	準工業地域
[Blue]	-	-	759.0	用途地域計
[Grey]	70	200	6,931.0	用途地域外
[White]	-	-	7,690.0	都市計画区域
[Red Dotted]	-	-	99.0	準防火地域
[Blue Dotted]	-	-	107.8	特別工業地区
[Green Dotted]	-	-	7.0	観光地区
[Red Line]	-	-	-	都市計画道路
[Green Line]	-	-	-	公園
[Blue Line]	-	-	-	都市下水道
[Black Line]	-	-	-	土地区画整理事業
[Dashed Line]	-	-	-	行政界
[Circle]	-	-	-	上段容積率・下段建ぺい率

S ≒ 1:22000

0 100 200 400 600 800 1000m